

明治20年（1887）2月、東京市下谷区に生まれる。早くから母親の手一つで育てられ、同41年7月東京帝国大学建築科を卒業し、大阪住友総本店臨時建築部に就職、同43年9月東京市技師に採用され、營繕課・土木課・電気局工務課・調査課・市場建設課などを経る。

当時の東京市は、第一次大戦後の経済成長と工場人口の増加にともない市街地が拡大して都市化が急速に進展し、抜本的な都市計画の必要性が高まっていた。

福田はその調査・立案に当たり、大正7年（1918）に、新市境界の設定・新交通系統・新市街系統などを盛り込んだ「新東京」を発表した（建築雑誌380号掲載）。

放射状街路・環状街路・公館の配置などに当時の欧米の計画理念の影響が読み取れる「新東京」の構想は、後に政府並びに東京市が策定した震災復興計画理想案のベースになり、注目すべきものである。

この案は、福田自ら大正13年にドイツに携えていくほ



ど力を入れたものだったが、その構想にもとづく復興計画は、財政事情が許さないなどの理由によってあくまで理想案にとどまり今日に至るまで忘れ去られている。

震災復興事業では、最後の東京市復興事業局長として、建築局長にあった佐野利器の方針を具体化すべく鉄筋の小学校・病院などの公共建築物を多数建設した。

その後、同潤会建築部長・住宅営団建設局長を歴史するとともに昭和12年から14年まで伊部貞吉・内藤多仲とともに建築学会副会長を務め、会長にあった佐野利器を補佐した。戦後は、昭和34年（1959）東急建設の設立に当り取締役として参加し、後に東急電鉄顧問となった。

一方、小規模なものであったが、自宅で設計事務所（福田工務所）を開設し、なかでも細部の意匠設計が上手で図面を描くのを楽しんでいたという。

代表的な建築作品に、美しい塔で知られる横浜開港記念会館、最近取り壊されたが、お茶の水の旧三楽病院などがある。また、日比谷公園内にある木造2階建ての公園資料館は初期の作品であり、その前には福田を偲ぶ有志によって肖像レリーフが設けられている。筑前琵琶の大家、粹人。昭和46年（1971）7月9日逝去。享年84歳。